

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標7_行財政運営】

施策 7-2_開かれた市政の推進

基本計画		事業番号	細事業名称
7-02-01	コミュニケーション型広報の推進	02133_01	広報推進事業
7-02-01	コミュニケーション型広報の推進	02642_01	全国「にいほま倶楽部」推進事業
7-02-02	情報提供メディアの複合的な利活用	01012_01	議会広報事業

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	02133_01		
事業名(行目名称)		広報推進費	細事業名	広報推進事業			
総合計画	まちづくり	行財政運営	施策	開かれた市政の推進			
	基本計画	コミュニケーション型広報の推進	担当課	シティプロモーション推進課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民ほか		数値	121,211人		
	手段(どうやって)	広報紙、CATV、インターネットといった多様な媒体を活用し、市の主要プロジェクト、各施設の紹介、各種イベントなど市政に関する情報発信を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	広報紙、CATV、インターネットといった多様な媒体を活用し、市の主要プロジェクト、各施設の紹介、各種イベントなど市民に役立つ市政情報を、分かりやすく情報提供する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		14,201	14,487	14,487	14,139	○職員手当等 483千円 ○報償費 4千円 ○旅費 63千円 ○委託料 12,727千円 ○使用料及び賃借料 1,178千円 ○負担金補助及び交付金 32千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	1,069	1,042	1,042	1,059		
	一般財源	13,132	13,445	13,445	13,080		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
LINE、TwitterなどSNSの登録者数(人)		目標値	20000	20000	20000	20000	20000
		実績	36278	41319	43216	45023	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
SNSでの広報については、適切な情報量や対象などを想定した配信とし、市公式SNSの利用が過度の負担・ストレスとならないような情報発信としながら、必要な情報は漏らさず積極的に関与する必要がある。また、今後も現在活用している各種SNSについては、さらなる登録者の増加を図る必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
LINEを中心とした現状のSNSやホームページなどの広報ツールを有効に活用するとともに、市内の各情報発信ブースも積極的に活用することでより効果的な広報活動を継続して実施していく。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
広報ツールの中心として活用する市公式LINEの機能について、基本タブのメニューに「おすすめ」タブを追加。観光や移住、産業遺産などに関する情報サイトを集約することで、市の魅力発信と市内外の利用者の利便性向上につなげた。今後も登録者の増加を図るため、事業を継続実施していくことが適当と思われる。							

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	02642_01		
事業名(行目名称)		人材ネットワーク形成事業費	細事業名	全国「にいほま倶楽部」推進事業			
総合計画	まちづくり	行財政運営	施策	開かれた市政の推進			
	基本計画	コミュニケーション型広報の推進	担当課	シティプロモーション推進課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	全国「にいほま倶楽部」会員		数値	1452		
	手段(どうやって)	会費無料、市政よりは希望者のみに送付し(郵送料別途徴収)、会員全員に年4回程度さまざまな地域情報をまとめて送付。会員特典制度として、会員証を発行し、新居浜市内の協賛事業所での各種優待サービスを実施。また、情報交流会を開催(東京・大阪・松山)。令和4年度からは、学生版全国「にいほま倶楽部」を創設し、就職情報や本市の情報発信等を定期的に行う。また、ふるさとにいほま便で特産品を送付。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	会員数の増大を図り、広い視野からの新居浜のまちづくりへのアドバイス・支援など、「市政の応援団」になっていただく。また、学生会員については、継続した繋がりの構築を図りUターンに繋げる。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		2,570	3,197	3,197	2,654	<ul style="list-style-type: none"> ○報償費 100千円 ○旅費 545千円 ○需用費 400千円 ○役務費 567千円 ○委託料 1,220千円 ○使用料及び賃借料 365千円 	
財源	県・国支出金	1,535	1,363	1,363	0		
	地方債		0	0			
	その他	10	11	11	10		
	一般財源	1,025	1,823	1,823	2,644		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
全国「にいほま倶楽部」会員数		目標値	600	1400	1400	1400	1400
		実績	1452	1172	1369	1379	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
ふるさとにいほま便については、対象を200人に減らした結果、早々に定員に達した。 また、下半期(1月)に松山・大阪・東京で交流会を実施する予定である。 令和4年度に学生版全国「にいほま倶楽部」を設立したが、本年度も学生の参加に重点を置いた交流会の開催を目指す。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
令和4年度に創設した学生版全国「にいほま倶楽部」の会員との継続的な関係構築、また、一般会員においては、にいほまの応援団として様々な支援をいただくため、事業実施は現状維持とする。今後は、関係人口増を目指し、さらなる会員の増加とネットワークの強化につなげていく。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当			
昨年度に引き続き、ふるさとにいほま便学生支援事業と連携し、学生版全国「にいほま倶楽部」に加入してもらうことにより、若年層の会員獲得に成功した。交流会についても、松山、東京、大阪で交流会を開催するとともに、交流会前には、合同企業説明会(松山)の開催や就職相談ブース(東京・大阪)を設置するなど、多くの学生に参画いただける企画を行った。今後も、ふるさとにいほま便を実施し、さらなる若年層会員獲得を行うとともに、就職情報や若者向けの話題等の定期的な発信、交流の場を設けることで、地元への愛着を深めてもらい、多くの方のUターンに繋げていきたい。							

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2024	01012_01		
事業名(行目名称)		議会広報事業費		細事業名	議会広報事業			
総合計画	まちづくり	行財政運営		施策	開かれた市政の推進			
	基本計画	情報提供メディアの複合的な活用		担当課	議事課			
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民			数値	113,466人		
	手段(どうやって)	<p>○議会中継実施 <本会議> 1 ケーブルテレビにより本会議の生中継と録画中継を実施する。録画中継は、1回目は議会開催日の翌日の18時から、2回目は議会閉会日の1週間後8時から、3回目は2回目終了翌日20時から放送する。2 インターネットにより本会議の生中継と録画中継を配信する。録画中継は、議会開催日の翌日の18時から、次期定例会の告示日まで配信する。 <予算決算特別委員会> インターネットにより委員会の録画中継を配信する。決算特別委員会は、委員会開催日の翌日の18時から2月定例会の告示日まで配信する。 予算特別委員会は、委員会開催日の翌日の18時から6月定例会の告示日まで配信する。 ○市議会だより発行 市政だよりに、市議会だより(議員の一般質問、委員会における審査の内容等)を掲載する。</p>						
	目的(どんな状態にしたいのか)	ケーブルテレビ及びインターネットによる議会中継を実施することにより、市民が視聴できる機会を増やして、議会に対する関心度を高める。 市議会だよりを毎月作成し、議員の一般質問、委員会における審査の内容などを中心に市政だよりに掲載することにより、市民に広く議会情報の提供を行い、議会に対する関心度を高める。						
III 投入費用								
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		4,310	4,712	4,712	4,711			
財源	県・国支出金	0	0	0	0	○需用費 1,695千円 ○委託料 3,017千円		
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	4,310	4,712	4,712	4,711			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度	
YouTube視聴数			目標値	5000	5000	2500	5000	5000
			実績	2747	3412	1367	3221	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>本会議のCATV生中継の実施により、傍聴に来ることができない方も、本会議を視聴することができる。また、CATV録画中継の実施により昼間に生中継を見ることができない市民の方も議会中継を視聴することができる。更に、CATV未加入の市民及び市外在住の方についても、インターネット中継の実施により定例会や臨時会を視聴することができ、多くの方に議会の内容を周知することができている。 また、予算決算特別委員会のインターネット中継の実施により予算決算特別委員会を視聴することができ、多くの方に内容を周知することができている。 市議会だよりでは、議案の議決結果や議員の一般質問、委員会における審査の内容など、議会活動について市民に広く情報提供することができている。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>市民を代表する議決機関として、公正性、透明性を確保し、市民に開かれた議会としていくため、引き続き議会中継を実施し、合わせて広く視聴の呼びかけを行い、市民の議会活動への認識をより深めてもらえるよう努める。 市議会だよりの発行については継続して実施するとともに、市民にとってよりわかりやすく、議会への関心を高められる紙面づくりに努める。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和6年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当					
<p>CATV及びインターネットを通じて、本会議や予算・決算特別委員会の様子を放映・配信することにより、議会の傍聴が困難な市民にも視聴の機会を提供できる。この取り組みは、議会活動の透明性を高めるとともに、市民の議会への関心を高める有効な手段になっている。 また、議会だよりを発行することにより、議員の一般質問、委員会における審査の内容などを中心に、市民に広く情報を提供することができおり、議会広報の充実が図られている。今後も継続して事業を実施することで、市民との情報共有と議会活動への理解、促進に努める。</p>								